

引退女神録・ネプ テューヌ

しろん

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したもので
す。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を
超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

きみと一緒に、最期まで。

※ど、そのねふ子二次の作者（<https://syosetu.org/nove1/197613/>）への貢ぎ物です。タイトルはこの人に考えてもらいました。ありがとうございます。書けとおd o s a……「メモはここで途切れているようだ」

プロローグ

目

次

プロローグ

「ねぷうつ!? ちよつ、もつ、もつと優しく……つ」

「…………じつとしろ。処置が出来ないだろ」

「ねぷうつ!?」

プラネテユースの女神パープルハートことネプラネテユースは、自らの意思で女神を辞めた。何を思つて女神を辞めたかまでは分からぬ。それは自由気ままに振る舞う彼女の頭を力ち割つてゲームで知識で埋まつた脳みそを解析して見ないと誰も分からぬ事だ。もつとも、そうしたところで誰にも分からぬかも知れないが。

なんやかんやあつて、一人の人間としてこのゲームギョウ界で生きていくのを決めた彼女は大手を振つて教会を離れ、そして行き倒れた。ちよつと考えれば分かることなのだが、日頃からゲーム三昧だった自堕落な少女が生身で家を飛び出したつてどうにもならない。当面の生活費として渡されたお金は瞬く間に無くなつて、宿のひとつも取れな

くなつてしまつた。

…………結果、急転直下でホームレス生活を余儀なくされたのである。ただ、彼女はとても運が良かつた。たまたま通り掛かつた手が足りない労働者に、捨てられた犬か猫かのようになつて保護されたのである。それが、一ヶ月前の出来事。

「だ、だからもうちょっとだけ優しく……、ね？　ね？　消毒液が染みつ！　染みつ……！」

「我慢してくれ。改善するかはともかく、消毒はしておくべきだろ」

「ねふうつ！？　鬼だよ鬼畜だよ！　わたしがこんなに痛がつてゐるのに乱暴するなんて！」

「静かにしてくれ。じゃないと手が滑つて脇腹に指を刺しそうだ」

「…………」

寝室。ベッドとタンスが置かれ、床に漫画やらゲームやらが散乱したお部屋の中央でネプテューヌは青ざめている。原因は、彼女の脇腹に出来たひび割れだ。長年女神として活動していた彼女が女神の力を手離した結果、肉体に幾つかの不調が起きた。身体能力と免疫力の低下。そしてそれらよりも分かり易いものが、右の脇腹に出来た赤いひび割れだ。肋骨の一番下、少し詳しく言うなら第10肋骨を中心としてひび割れたガラスのように肉が割れている。出血はしていない。しかし触れれば相応の痛みが走るよう

だ。

今、男物のワイシャツを着た元・女神少女は裾を捲つて腰や背中を人目に晒している。そんな彼女の後ろには消毒液が染みた脱脂綿を左手に持つ青目の男性。先のやり取りを見るに、ひび割れの手当てをしているのだろう。

「あ、あの、もう少し優しく……優しく、……ね？」

「口を閉じてろ。舌噛むぞ」

「あ、それは無理かな。だつてわたしー、黙るの苦手だもんねーっ」

「…………」

「ねつ、ねぶつ!? 兖談つ、兖談だからあつ!!」

背後の彼が眉間に皺が寄つたのを察知したのか、ネプテューヌは更に青ざめた。膝の上のやかましい少女を前に男はひとつ溜め息を吐いて、もう一度脱脂綿を、今度は優しく押し当てた。

「ねぶつ、ねぶつ…………！」

瞼をギュッと閉じた少女が悶える。ひび割れの痛みは結構なもののように、額やら

首筋に大粒の汗が浮かんでいる。

「…………終わりだ。後で包帯巻くから、それまで激しく体を動かすなよ」

「終わりつ!? 終わりつ!? ジャアゲームの続きやつても良い!!」

「…………良いぞ。プリンは？」

「いる——！　いやー、君つたら気が利くねっ」

手当てから解放されるなり、彼女はベッドから飛び降りた。激しく体を動かすなと言われた直後にこの始末。人の話をまるで聞いていない。一応怪我人なのだから、もつと大人しくしたらどうなのか。

しかし、元気に笑う姿こそプラネテユースらしい。小さな体を目一杯動かして生きる姿は、可愛いを通り越してもはや尊いと言つて良いだろう。

「コンパ先生にミイラにされたくないなら、もうちょっと落ち着け

「分かってるつて～♪　あ、プリンお願ひね！」

本当に分かっているのだろうか。右手の指でVマークを作ったワイシャツネプテユースは、小走りで寝室を出て行つた。さつきまでの痛みに怯えた姿はどこに行つたのやら。お調子者のネプテユースはコロコロと表情を変える。

「まつたく。おいねぶ子、寝転がるなら左を下にしろよ」

救急箱を片手に、男は立ち上がる。こうしてねぶ子の面倒を見ている辺り、どうやら彼は悪い人間では無いようだ。

それでは、少しだけこの物語について記しておこう。

これは別に、ネプテューヌが世界を救うような物語ではない。冒險の旅に出たり、ア
イドルになつたり、異世界に飛んだりするわけでもない。

女神を辞め、人間となつた彼女がいつものように生きていく、小さな小さな物語。

「引退女神録・プラネテューヌ」